

令和5年度入学者選抜試験問題（総合型選抜）

（地域学部地域学科国際地域文化コース）

「課題論文」出題意図

今年度は、『本は、これから』（池澤夏樹編、岩波書店、2010年）に所収されている中野三敏氏のエッセイ「和本リテラシーの回復のために」を課題論文の資料として用意した。本資料の中で、中野氏はこれからの本はどのような姿になるのかと、これまでの本はどんな運命をたどることになるのかという二つの問いを立て、明治以前の木版本や写本類の原本をそのままスキャンして電子書籍化することの意義と、変体仮名と草書体漢字で書かれたそれらの本を読むための能力（和本リテラシー）を回復することの必要性を述べている。

問一では、著者が「和本リテラシー」という言葉をどのような意味で用いているかを、簡潔に要約できるかを問うた。問二では、様々な領域で劣化や散逸が進む資料をデジタル化することの意義と課題について、具体的な例に即して論じることができるかを問うた。

評価の観点とは、①資料の要点を読み解く力、②内容の論理的一貫性や説得力、③文章表現の技法等である。以上の観点から、「知識・技能」、「思考力・判断力」、「表現力」、「創造性」を総合的に判断する。